

実務経験のある教員による授業科目の配置

実務経験のある教員が担当する科目単位数

教養科目 専門科目 合計	人間科学部 心身健康科学科
	20 111 131
設置基準上の標準単位数	13

実務経験のある教員による授業科目一覧及び実務経験と授業の関係

科目名	単位	年次	開講学期	担当教員	実務経験と授業の関係	
					関連する履歴	本授業との関係性及び授業にもたらす効果
人間と音楽	2	1	後期	丹羽 裕紀子	日本音楽療法学会認定音楽療法士 ノードフ・ロビンス音楽療法士 音楽療法の実践を保育園、特別支援学級、障害者施設、高齢者施設等で行った実務経験	音楽療法の歴史を学ぶことで、音の起源や音楽の起源について知ることができる。音楽療法について知ること、心身の健康に音楽がどのような役割があるかを理解する。また、現在自分が聴いている音楽と向き合い、自分と音楽について考える機会となる。
人間と美術	2	1	後期	早瀬 玲	公立中学校、高校、高等専門学校の教諭としての実務経験、日本画家という芸術家活動の実体験から教育現場で必要となる考え方やスキル習得の指導を行う。	創造性と想像性を学生に いかに考えてもらうかが狙いです。
社会生活と法	2	1	後期	柴垣 直哉	平成24年12月 愛知県弁護士会に弁護士登録	弁護士としての実務経験を通じ、抽象的な日本国憲法を敷衍した身近な諸制度の紹介や、法学の原理原則に対する考え方、養護教諭・教員資格取得に必要な憲法的知識の指導を行う。
日本国憲法	2	1	前期又は後期	柴垣 直哉	平成24年12月 愛知県弁護士会に弁護士登録	弁護士としての実務経験を通じ、抽象的な日本国憲法を敷衍した身近な諸制度の紹介や、法学の原理原則に対する考え方、養護教諭・教員資格取得に必要な憲法的知識の指導を行う。
文章表現（国語）	2	2	前期又は後期	檜内 久義	高等学校で国語教育に35年以上携わる。	実践的演習により実社会に必要な日本語リテラシーを養成できる。
健康生活	2	1	前期	近藤 由里子	国立病院における看護師としての長年の実務経験を通じ、看護の基本を踏まえ、健康な人生を送るための考え方、方法について講義を行う。	健康に対する患者教育の経験を活かし講義をすることで、学生が健康生活を送るための知識、技術を学修し学生自身の健康行動の必要性、方法の理解に繋がる。
野外活動・レクリエーション実践（バドミントン）	1	1	前期又は後期	野田 正明	高等学校の保健体育教諭として勤務。	高等学校の保健体育科教諭としての授業経験を活かし、バドミントンの技術やルールについて段階的な指導を行い、自主的に授業を行うことで生涯スポーツにつなぐことを目指す。
野外活動・レクリエーション実践（テニス）	1	1	前期又は後期	刑部 純平	民間テニスクラブにて、テニスコーチ（日本スポーツ協会公認テニスコーチ）として、初心者から競技者まで幅広いレベルのテニスプレーヤーを指導。	テニスコーチとして、初心者から競技者まで幅広いレベルのテニスプレーヤーを指導した経験から、受講者のレベルに応じた段階的な指導を実践する。各学生のレベルに応じた指導を実施することで、より主体的かつ効果的にテニスの技術習得を目指すことが期待できる。
Yoga	2	2	後期	山崎 淳子	生徒さんの年齢は若い方からご年配の方までであり皆さんの目的が異なる中で個人の要望に沿って教えてきました。人はそれぞれ顔が違いうように身体の柔軟性や筋肉、骨格も異なります。ご年配の方には身体の可動域を広げることを中心にしたストレッチや軽めのポーズをまた若い方には美姿勢を保つためのポーズやストレッチ体幹トレーニングを中心に教えてきました。	ヨガを通して美姿勢や健康な身体を手に入れるだけでなく瞑想やヨガ哲学の学びを教授する。
笑い与健康	2	1	後期	西田 元彦	医師として、内科クリニックにて臨床診療に携わっている。	内科医師として日常に診療に携わり、病気の予防、改善に努めている他、笑いの健康効果の研究、報告を行ってきた。これらの経験をもとに学生に、「笑い与健康」との関係性を講義し、健康に対する理解を深めることが期待できる。
市民社会論	2	2	後期	浅野 健 鶴飼 哲矢	名古屋市の制度である地域まちづくりアドバイザーに登録し、まちづくりの専門家として四間道・那古野地区（西区）、熱田湊地区（熱田）、大曾根地区（北区）などの地域まちづくりを支援。名古屋市及び周辺都市での都市計画・まちづくりコンサルタントとして自治体が進める様々な施策（都市・地域、空き家対策、商店街再生、子育て、防災など）の調査や計画策定を担当。	地域まちづくりや自治体の調査・計画策定の経験を活かし、市民社会を学ぶ上で不可欠な国や地方自治体の役割や取り組みについてPCを使って学生が自ら調査するとともに、地域まちづくりの現場で行われる現地調査やワークショップを模擬体験し、一市民として地域や社会の情勢を学び、考える機会とする。
心身健康論	2	1	後期	松原 達昭	医師	附属病院を有する医学部や歯学部の教員として学生を指導した経験を活かし、生活習慣病、感染症、遺伝性疾患、メンタルヘルス等に関して、具体的な実例を交えて講義を実施できる。
救急処置法	2	1	後期	松田 直之	<ul style="list-style-type: none"> ■ 救急科指導医・救急科専門医としての実地実務活動：救急科指導医・救急科専門医として実際に救命救急センターや救急外来などで緊急性の高い患者さんの診療を2000年以降、現在まで継続しています。北海道大学病院、京都大学医学部附属病院、名古屋大学医学部附属病院、関連病院の救急診療を実地で指導してきました。名古屋市の救命救急センターでは、中京病院救命救急センターで毎週火曜日に救急搬送された重症患者さんの診療を担当しています。2025年度においても、心肺停止、脳卒中、急性心筋梗塞、多発外傷などで救急搬送されてきた患者さんの診療はもとより、この現場での診療に加えて、名古屋大学医学部や現場で診療教育を継続することとなります。 ■ 集中治療科専門医としての実地実務活動：心肺蘇生後の全身管理、COVID-19などの重症感染症、多発外傷や広範囲熱傷などの重症状態、多臓器不全となる敗血症などの管理を多くの教科書の執筆に加えて、2000年から現在まで実際の現場で医師・看護師・臨床工学技士・薬剤師さんなどに診療に加えて、管理の背景知識や病態学を教育させていただいています。日本集中治療医学会では理事として、国内の集中治療科専門医と連携して、集中治療の指導および統括を担当しています。 ■ 麻酔科標榜医・指導医・専門医としての実地実務活動：2000年より麻酔科標榜医・指導医・専門医を継続し、現在も奈良県立医科大学病院などの手術室で実際に救急患者さんの麻酔、骨折などの麻酔を担当し、多くの先生たちと連携して専門医の育成に尽力しています。特に、救急搬入された重症外傷の緊急手術、心臓血管手術、人食いバクテリアなどの敗血症性ショックの緊急手術、小児麻酔などを得意としています。 ■ 救急処置法の継続による実践教育性：1993年に医師免許を取得した後、救急科・麻酔科・集中治療科の専門医資格を取得し、30年以上にわたり初期は週5日以上、現在は週2日以上「救急処置法」に関係する診療を継続しています。これにより、本授業「救急処置法」において、現在の最先端を、明快にわかりやすく教授できる状況にあります。 	私自身は、年間約50名の人肺停止患者さんの心肺蘇生を実地で担当しています。その上で、私たちの領域としてはまず命にはかかわらない緊急性の低い状態として軽症とはなりますが、「捻挫」や「骨折」などの患者さんをルーティンに診療しています。このような真に現場で救急医療を実践し、診療指導をしている医師に、授業を受けることで、救命救急のエッセンスを短時間で習得することができます。救急医療の現場の最先端を、学生さんに教授できることが本講義の特徴です。聴講する学生さんの学習意欲を高める工夫ができるという効果が期待されます。
健康・医療心理学	2	3	前期	古井 由美子	35年間大学院での臨床心理士として、カウンセリングや心理検査やチーム医療などの活動をしてきました。またこの10年は自治体における心理啓発活動などの講演も行っています。	健康・医療心理学の各分野の活動が実感を持って伝わる様に、自分の経験した臨床例や活動を用いて説明しています。
教育方法及び技術（情報通信技術の活用を含む。）	2	2	後期	丹下 洋吾	愛知県立高等学校において、国語科教諭として26年（うち進路指導主事6年、教務主任6年）、管理職として11年（教頭5年、校長6年）の実務経験を有する。さらに、教科情報の授業におけるティーム・ティーチング担当者としての実務経験も有する。	教育の方法及び技術について、基本的な考え方から各論に至るまで、実際の教育現場で求められる専門的な知識や技術を、教科担任やHR担任としての実体験や、主任や管理職としての経験を踏まえながら指導することで、より具体性を持ったものとして伝えることができると考えている。

教育相談（カウンセリングを含む。）	2	2	前期	森 千鶴	管理職、養護教諭、スクールカウンセラーを経験した視点から、学校現場の具体的な場面や事例をもとに、養護教諭や学級担任として教育相談を身近に捉えることができるように実践的な演習を取り入れた授業を行う。	管理職、養護教諭、スクールカウンセラーの経験から、学校現場で起こる諸問題についての事例やその具体的な対応策について指導することで、児童生徒理解を深め、教育相談を進めていく実践力を身に付けることが期待できる。
解剖・生理学(人体の構造と機能及び疾病Ⅰ)	2	1	前期	松原 達昭	医師	からだの「しくみ」を構造的（解剖学）と機能的（生理学）から解説するにあたって、附属病院を有する医学部や歯学部において学生を指導した経験を活かし、健康なからだの状態についての知識が教示できる。
病気の成り立ち(人体の構造と機能及び疾病Ⅱ)	2	1	後期	今澤 正彦	臨床医として、様々な傷病の症例に接してきた。	実務経験を活かし、解剖学的・生理学的・病理学的な視点などから、各種の病態を呈するに至る仕組みや予防法について総論的・各論的に解説して、自身の健康管理のみならず将来においても社会に活かせる理解を涵養する。
学校保健	2	1	後期	後藤 多知子	養護教諭として公立小・中学校勤務。	学校教育と学校保健、学校保健経営における組織活動の実態や地域保健との関係など、現場での学校保健について教授している。
健康管理学概論	2	3	前期	今澤 正彦	臨床医であると同時に産業医として、臨床現場の症例に接するのみならず、事業場の労働衛生の3管理の一環としての健康管理にも関与してきた。	実務経験を活かし、内科学的・外科学的、ならびに予防医学的・公衆衛生学的な視点などから、人の健康管理とそのための法律・制度・統計とに関する基本事項を解説して、自身の健康管理のみならず将来においても社会に活かせる理解を涵養する。
生活習慣病論	2	2	後期	今澤 正彦	臨床医として、各種の生活習慣病の症例に接してきた。	実務経験を活かし、解剖学的・生理学的・病理学的・内科学的・外科学的な視点などから、病因やその背景となりがねない生活習慣について総論的・各論的に解説して、自身の健康管理のみならず将来においても社会に活かせる理解を涵養する。
青少年期発達支援論	2	3	後期	後藤 多知子	公立小中学校養護教諭、心の相談員	養護教諭として小・中学校で勤務していた経験をもとに、青少年期の児童生徒の学校生活や家庭生活の様子を理解し、近年の心身の健康課題について具体的にイメージできる指導を行う。
ヘルスアセスメントⅠ	2	2	後期	舘 英津子	循環器内科、CCU、一般内科・外科等の病棟看護師として勤務	看護師としての臨床経験をもとに体調不良や外傷時の看護学的アセスメントについて事例を挙げて解説し、基礎的な看護学的アセスメント方法の理解を促す。
ヘルスアセスメントⅡ	2	2	後期	舘 英津子	循環器内科、CCU、一般内科・外科等の病棟看護師として勤務	看護師としての臨床経験をもとに体調不良や外傷時の看護学的アセスメントについて事例を挙げて解説し、より実践的な看護学的アセスメント方法の理解を促す。
養護概説	2	1	前期	後藤 多知子	公立小中学校養護教諭	養護教諭として小・中学校で勤務していた経験をもとに、養護教諭の歴史と職務内容の変遷を踏まえ、近年、養護教諭に求められる社会的ニーズ、具体的な職務内容および求められる資質・能力について講義する。
健康相談・健康相談活動Ⅰ	2	2	後期	後藤 多知子	公立小中学校養護教諭、心の相談員	養護教諭として小・中学校で勤務していた経験をもとに、健康相談活動について、児童生徒の学校生活の様子、教職員や保護者及び学校内外の関係者との連携の現状を演習を通じて教授する。
健康相談・健康相談活動Ⅱ	2	2	後期	後藤 多知子	公立小中学校養護教諭、心の相談員	養護教諭として小・中学校で勤務していた経験をもとに、健康相談活動について、児童生徒の学校生活の様子、教職員や保護者及び学校内外の関係者との連携の現状を演習を通じて教授する。
看護学概論	2	1	後期	舘 英津子	看護師（循環器内科病棟等）、自治体保健師	病棟看護師としての臨床経験や保健師として保健行政に携わった経験をもとに、看護学的なケアの考え方、保健行政活動、生命倫理等について事例を挙げて解説し、心身の健康増進へ概念及び具体的な健康増進方法への理解を促す。
基礎看護方法論Ⅱ	2	2	前期	舘 英津子	循環器内科、CCU、一般内科・外科等の病棟看護師として勤務	看護師としての臨床経験をもとに、感染管理を含めた基礎的な看護技術を教授する。この授業における学びは卒業後に養護教諭としてのみならず日常生活においても活用することができる。
学校救急処置(臨床実習を含む。)	2	3	前期	近藤 由里子	国立病院における長年の看護師としての実務経験を通じ、学校救急処置の基本、処置の詳細について実体験を踏まえ、教育現場で必要となる専門的技術、知識、態度について指導を行う。	看護の臨床経験を講義、臨床実習に生かすことで養護教諭をめざす学生が看護をより理解することができる。また、臨床実習に生かすことができる。
養護活動実習	2	3	前期又は後期	後藤 多知子 舘 英津子	公立小中学校養護教諭 循環器内科、CCU、一般内科・外科等の病棟看護師として勤務	養護教諭の経験を活かし、学校ならではの健康診断、学校環境衛生検査、災害共済給付システム（独立行政法人日本スポーツ振興センター）の実際を指導する。 看護師としての臨床経験をもとに、体調不良時の対応や家庭・医療機関との連携等について事例を挙げて解説し、実践的な理解を促す。この授業における学びは救急対応及び救急体制づくりに生かすことができる。
健康教育・保健室経営演習	2	3	後期	森 千鶴	学校現場で養護教諭として勤務していた経験をもとに、「養護教諭の職務の特質」や「保健室の機能」を理解させ、保健室経営について、具体的な内容を紹介しながら実践的な演習による授業を行う。	養護教諭として保健室経営に取り組んだ経験を基に、学校保健活動における養護教諭の職務や役割について指導することで、「養護教諭の職務の特質」や「保健室の機能」を生かした保健室経営を推進する力を身に付けることが期待できる。
体育実技(器械運動)	1	2	前期又は後期	鈴木 雅博	体育の高校教諭として40年間勤務し、課外活動の運動部活動の「体操」を30年間指導した。	課外活動の運動部活動の「体操」での指導を生かして、器械運動における基本的な動作から専門的な技術へと発展させ、実践的な指導を行う。
体育実技(水泳)	1	1	前期又は後期	田中 雅文	愛知みずほ大学瑞穂高校の保健体育教諭としての実務経験。	部活動（水泳部）での指導を生かして、水泳の基本的な動作から専門的な技術へと発展させ、実践的な指導を行う。
体育実技(陸上)	1	2	前期	野田 正明	高等学校の保健体育教諭として勤務。また、国民スポーツ大会を中心とした各種競技会での競技力向上対策にも従事。	高等学校の体育科の授業を指導してきた経験から陸上競技の各種目を展開し、競技力向上対策を進めてきた経験から、さらに専門性を高めた授業も実施していく。
健康スポーツ医学(運動療法を含む。)	2	3	後期	今澤 正彦	臨床医として、生活習慣病（糖尿病、高血圧など）、超高齢化社会を背景とした各種疾患、スポーツに際して配慮すべき各種の状態、スポーツに伴う各種の外傷などの症例に接してきた。	実務経験を活かし、解剖学的・生理学的・病理学的・内科学的・外科学的な視点などから、健康スポーツ医学、運動生理学、各種の運動療法、運動障害に関する基本事項や注意事項を解説して、将来において社会に活かせる理解を涵養する。
体育実技(柔道)	1	3	後期	榎本 好根	柔道整備師として実務経験を活かし各種柔道教室の指導、各種柔道大会の審査、審判、競技も実践しています。	
トレーニング・フィットネス演習	2	3	後期	刑部 純平	スポーツチームにて、トレーナー（NSCA認定ストレングス&コンディショニングコーチ）として、アスリートを対象とした競技力向上トレーニングを指導。	トレーナーとしてアスリートを対象にトレーニング指導した経験から、アスリートの競技力向上に必要不可欠である体力要素（筋力や柔軟性など）を向上させるための体力トレーニングについて、ロールプレイ型の実践教育を行う。主体的かつ効果的にトレーニング指導のスキル習得を目指すことが期待できる。
障害者スポーツ	2	4	前期	大河原 裕貴	小児及び成人対象のリハビリテーション（機能回復）を目的としたリハビリテーションスポーツ指導を実施。また障害者スポーツセンター勤務時は、三障がいの方へのスポーツ指導および障がい者スポーツの振興事業を実施。	障がい者（児）のスポーツの紹介を基本に、障がいの理解、スポーツ指導上の工夫をどのように対応したら良いかを実例を紹介しながら理解を深めることができる。またインクルーシブなスポーツ指導を紹介することにより、学生自身のスポーツへの対応を多岐にわたるようにする。
ライフサイクルと健康	2	2	後期	竹中 香名子	小児科医院および高齢者介護施設での看護師経験、および保健所の保健師として主に心の健康や精神疾患患者・家族会に携わった経験を有する	
子どもの保健	2	2	後期	近藤 由里子	国立病院における長年の看護師としての実務経験を通じ、小児看護の詳細について経験を踏まえ教育現場で必要となる専門的知識、技術、態度について指導を行う。	教育現場で必要となる専門的知識、技術、態度を学ぶことができる。また、小児の基本的知識、育児を学ぶことで将来の子育てに関心を持つことができる。

高齢者の保健	2	3	前期	山根 友絵	訪問看護ステーション看護師、介護老人保健施設看護師、地域包括支援センター保健師として高齢者への看護を行ってきた。	高齢者の保健を学修する上で、高齢者の身体、心理、社会的特徴の理解は不可欠である。これまでの実務経験を活かし、高齢者の特徴を踏まえた具体的な対応方法についての教育を行う。
運動プログラムの管理(運動療法(2)を含む。)	2	2	後期	今澤 正彦	臨床医として、生活習慣病(がん、糖尿病、高血圧、脂質異常症など)、超高齢社会を背景とした各種疾患(虚血性心疾患、変形性関節症、腰痛症など)などの症例に接してきた。	実務経験を活かし、解剖学的・生理学的・病理学的・内科学的・外科学的な視点などから、運動プログラム作成や運動療法実施に際しての基本事項や注意事項を解説して、将来において社会に活かされる理解を涵養する。
健康運動指導実習	2	3	後期	刑部 純平	民間フィットネスクラブにて、トレーナー(日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー)として、若年者から高齢者まで幅広い年代の方を対象とした運動指導を経験。	トレーナーとして若年者から高齢者まで幅広い年代の方を対象とした運動を指導した経験から、健康の維持増進に必要な体力トレーニングについて、対象者の年代や基礎疾患を想定したトレーニング指導をロールプレイ型の実践教育にて行う。主体的かつ効果的に運動指導指導のスキル習得を目指すことが期待できる。
臨床心理学概論	2	2	前期	廣井 いずみ	臨床心理士、公認心理師として大学附属相談室でのカウンセリング	カウンセリングの技法について、クライアントの様々な応答を想定して説明できる
青年心理学	2	3	前期	廣井 いずみ	家裁調査官としての少年への面接、アセスメント	青年の発達課題やその乗り越え方について、実践例をふまえて説明できる
精神疾患とその治療	2	2	後期	古井 由美子	1988年4月～2023年3月末まで、愛知医科大学病院で常勤心理士として勤務	愛知医科大学病院では精神科にて心理検査や心理療法に従事し、様々な精神疾患の方との経験があり、自身が関わった事例を元に説明できる
心理的アセスメント	2	3	後期	石井 明子	臨床心理士、公認心理師として精神科・心療内科クリニック、児童養護施設、大学附属相談室にて心理アセスメント(面接・心理検査等)を実施	児童から高齢者まで、また様々な疾患に対して幅広く心理アセスメントを実施している経験から、どのような点に留意しながらアセスメントを行っていくのか、現場の実際を踏まえた演習が期待できる。
心理学的支援法	2	2	後期	長岡 由紀子	臨床心理士及び公認心理師の資格を有する。医療現場、教育現場にて心理臨床活動に従事した。	医療現場、教育現場にて心理臨床活動に従事した経験から、公認心理師カリキュラムで必要となる知識、演習を実施し、より実践的な学びの習得を目指すことができる。
公認心理師の職責	2	3	後期	石井 明子	臨床心理士、公認心理師として精神科・心療内科クリニック、児童養護施設、大学附属相談室にて心理面接・心理検査・外部機関連携等	公認心理師としての仕事の責任や領域での職務の違い、外部機関との連携など、実践例を踏まえて説明できる
関係行政論	2	3	前期	高沢 佳司	過去に、児童福祉センター等において療育手帳の判定業務を行う者(心理判定員)として知能検査・発達検査を行った経験がある。また現在、公認心理師としてNPO法人の非常勤心理相談員を務めている。そこでは児童の発達・学習相談に従事しながら、保護者カウンセリングを行っている。必要に応じて児童に対する知能検査・発達検査を実施している。	主に児童やその保護者に対する査定業務の現場経験がある。そのため、関係行政論において重要な公認心理師の現場で求められる法律、法規、現場の実態および活躍する専門家についての情報が提供できる。
司法・犯罪心理学	2	3	後期	堀尾 良弘	法務省所管の少年鑑別所における心理技官として、非行少年に対する心理検査、面接、事例分析を行った経験	法制度や非行少年の理解について、経験を踏まえて伝えることができる。
心理演習	2	3	前期	長岡 由紀子	臨床心理士及び公認心理師の資格を有する。医療現場、教育現場にて心理臨床活動に従事した。	医療現場、教育現場にて心理臨床活動に従事した経験から、公認心理師カリキュラムで必要となる知識・演習に関して、より実践的な学びの習得を目指すことができる。
教育職入門	2	1	後期	野田 正明	公立高等学校にて管理職(校長・教頭)と、教育委員会事務局体育スポーツ関係部局(課長・課長補佐・係長)にて勤務。	高等学校での管理職、教育委員会事務局での執務経験をもとに、実際の学校現場における教師を取り巻く状況や喫緊の課題について講義するとともに、教師の魅力や悩みについても取り上げる。
保健体育科教育法Ⅰ	2	2	前期	野田 正明	高等学校における保健体育科教諭・管理職(校長・教頭)、教育委員会事務局体育健康スポーツ関係部局の課長・課長補佐・係長として勤務	高等学校での保健体育科教員や管理職、及び岐阜県教育委員会の保健体育科教育担当として各種研修や研究に携わった経験をもとに、学校現場を想定した実践的な授業により、必要な知識やスキルを習得することを目指す。
保健体育科教育法Ⅱ	2	2	後期	鈴木 揚一	高等学校保健体育の教諭、県立高等学校の管理職及び愛知県教育委員会の安全教育担当の経験を活かし、学習指導要領における「体育科教育」の理解を深めるため、効果的な教材研究や授業方法について重点的に講義を行う。また、学習指導要領に準拠した学習指導案の作成や模擬授業の発表の指導を行う。	
保健体育科教育法Ⅲ	2	3	前期	野田 正明	高等学校における保健体育科教諭・管理職(校長・教頭)、教育委員会事務局体育健康スポーツ関係部局の課長・課長補佐・係長として勤務。	高等学校における保健体育科教員・管理職として、また教育委員会事務局員として各種研修や研究に携わった経験をもとに、学校現場を想定した実践的な授業により教科指導力向上を目指す。
保健体育科教育法Ⅳ	2	3	後期	鈴木 揚一	高等学校保健体育の教諭、県立高等学校の管理職及び愛知県教育委員会の安全教育担当の経験を活かし、「体育科教育」を具現化するため、保健体育科教育法Ⅱを発展させた授業を行う。学習指導案では、「単元目標」「ねらい」及び「評価規準」を重視し、模擬授業では生徒の健康・安全に配慮した実践的な発表と振り返りの指導を行う。	
保健科教育法Ⅰ	2	2	前期	森 千鶴	学校現場での養護教諭としての経験を生かし、小学校体育(保健領域)の内容を踏まえて中学校の保健体育科保健分野までの指導案の作成を指導する。また、児童生徒の認識・思考、学力などを考慮した授業設計について教授する。	養護教諭として授業実践を実施してきた経験から、養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かした保健の授業の進め方について、児童生徒の発達段階に合わせた授業設計を具体的に指導することで、学校現場での授業実践力を身に付けることが期待できる。
保健科教育法Ⅱ	2	2	後期	森 千鶴	学校現場での養護教諭としての経験を生かし、高等学校学習指導要領における保健体育科「科目保健」の背景となる学問領域との関係について理解させ、教材研究に活用する方法を講義する。具体的な授業を想定し、ICTを活用した授業設計による模擬授業の実施を通して実践指導を行う。	養護教諭として授業実践を実施してきた経験から、養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かした保健の授業の進め方について、生徒の実態や系統性を考慮した授業設計を具体的に指導することで、学校現場での授業実践力を身に付けることが期待できる。
保健科教育法Ⅲ	2	3	前期	木村 美来	小学校での4年間の実務経験を有する	小学校現場での教育経験を生かし、学習効果を高めるために必要な発問や板書計画などを含む指導技術に関するトレーニングを取り入れる。また、授業デザインに関する理論を踏まえ、学習者の発達段階に即した学習指導案の作成について教授する。
保健科教育法Ⅳ	2	3	後期	木村 美来	小学校での4年間の実務経験を有する	小学校現場での教育経験を生かし、学習効果を高めるために必要な発問や板書計画などを含む指導技術に関するトレーニングを取り入れる。また、授業デザインに関する理論を踏まえ、学習者の発達段階に即した学習指導案の作成について教授する。
特別活動及び総合的な学習の指導法	2	2	前期	上井 靖	公立中学校における教諭時には、特別活動及び総合的な活動の時間の授業を担当した。管理職時には、これらの授業が推進できるような環境づくりに努めた。市教委の指導主事として、これらの授業を指導する教員の研修を企画、実施した。	特別活動では、レクレーション的な活動、生徒会活動などの生徒による主体的な活動を、総合的な学習の時間は、福祉体験、職場体験、国際交流体験など、学校での実践的な授業での指導法を紹介し、大学の授業でアクティビティなどを体験する授業展開とする。
道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の理論	2	2	前期	上井 靖	公立中学校における教諭時には、道徳、総合的な活動の時間及び特別活動の授業を担当した。管理職時には、これらの授業が推進できるような環境づくりに努めた。市教委の指導主事として、これらの授業を指導する教員の研修を企画、実施した。	道徳については、モラルジレンマの題材を取り入れ、考える道徳の理論に基づいた授業を展開する。総合的な学習の時間は、身近な社会課題に対して、自分の考えをもち自己決定できるカリキュラムを横断的総合的な新たな学びの理論を学ぶ授業を展開する。特別活動は、社会的自立につながる学級活動、生徒会活動等の事例を通して実践的な理論を学ぶ授業を展開する。

生徒指導の理論と実践	2	2	後期	都筑 祐一	<ul style="list-style-type: none"> 公立中学校生徒指導主事（3年） 市生徒指導指導員（3年） 市教委生徒指導担当指導主事（3年） 市生徒指導部長（7年） 愛知県生徒指導研究大会委員（2年）委員長（1年） 	公立中学校で、多くの荒れた子供たちと長きにわたって向き合ってきました。その中で、子どもたちとの向き合い方や、保護者との関係づくり、関係機関との連携など、幅広く学ぶことができました。この授業では、私自身が経験から得たものと、新たな視点で見直された積極的な生徒指導を学ぶことで、学校現場において有意義な生徒指導を展開する一助になるものと考えます。いじめ、不登校など学校が抱える今日的な課題にどう向き合うか、教育相談の在り方、教師としてどう生きるかなど、幅広く学ぶ機会になります。
進路指導の理論と実践	2	1	前期	都筑 祐一	<ul style="list-style-type: none"> 公立中学校にて3年生の担任として、進路指導実績14年 公立中学校の管理職(教頭2年・校長5年)として、中学校の進路指導委員会における指導・助言7年 	中学校3年生の担任として多くの生徒の進路指導に携わってきました。また、中学校の管理職として、若い先生たちが行う進路指導に数多くの指導・助言を行ってきました。この授業では、私自身の指導経験と学生自身が受けてきた進路指導を振り返りながら、キャリア教育の理解を深めていきます。学校現場において有意義な進路指導を展開する一助になること、あわせて学生自身の今後のキャリア形成に役立てば幸いです。
養護実習事前・事後指導	1	4	通年	後藤 多知子	公立小中学校養護教諭	養護教諭経験を活かし、実習前は、養護実習生としての態度・姿勢について指導し、復習する必要がある知識技術を示す。実習後は、学校現場の現状を踏まえて、学生個々の課題、集団の課題を明確にする振り返りを行う。
教職教養 I	2	3	前期	荒川 毅	公立学校教員（小中学校）において37年間の勤務実績あり 教育委員会において、教員採用等の実務経験が5年間あり	教員として37年勤務し、内現場の管理職（校長・教頭）としては17年、また教育委員会の人事や採用担当としては5年（管理職経験を含む）の経験を有する。学校現場の具体的な事例を通して、学生からの質問に丁寧に答えることができ、疑問点の解消などを図ることができる。教員採用については、教育委員会での実務に携わったことから、採用の重点などを授業の中で示すことができ、採用試験における実践力を向上させることができる。
教職教養 II	2	3	後期	荒川 毅	公立学校教員（小中学校）において37年間の勤務実績あり 教育委員会において、教員採用等の実務経験が5年間あり	教員として37年勤務し、内現場の管理職（校長・教頭）としては17年、また教育委員会の人事や採用担当として5年（管理職経験を含む）の経験を有する。こうした経験から、学校現場の具体的な事例を通して、学生からの質問に丁寧に答えることができ、疑問点の解消などを図ることができる。教員採用については、教育委員会での実務に携わったことから、採用の重点などを授業の中で示すことができ、採用試験における実践力を向上させることができる。